

# 心の東高たより

No.138

<http://www.ah.hokkaido-c.ed.jp/>

PTA事務局 〒070-0036 旭川市6条通11丁目左 23-2855



シマレ  
ガンバレ

## 目次

- |                     |                    |                    |
|---------------------|--------------------|--------------------|
| 1頁 見学旅行             | 3頁 文化講演会／後期生徒会役員紹介 | 5頁 進路指導部より／研究会参加報告 |
| 2頁 球技大会／急歩大会／職業セミナー | 4頁 地域医療体験／定時制だより   | 6頁 部活動報告           |



大阪城をバックに



鹿が5頭？（奈良公園）



着物がよく似合います（地主神社前）

私たち二年生は9月1日から5日まで、関西と首都圏を巡る見学旅行に行つてきました。私たちの旅行は自主研修の時間が5日間のうち、なんと4日間もありました。これは、先生方の厚い信頼の表れだと思います。実際に当日も、私たちは先生方の信頼を裏切らない行動ができました。

私は京都の自主研修である「特別なお守り」を買いました。ビャクダンの木に、手彫りで仏様が彫られているものです。このお守りはとても良い香りがして、仏様は眠っているような、ほほえんでいるような顔をしています。値段はなんと五千円。お小遣いの10分の1も使つてしましました。友達には、「そんな大金つき込んじやつて……御利益はあるの？」と言われましたが、実際に私自身びっくりするようなことが起きました。その日の京都は朝からずっと雨だったのですが、なんとそのお守りを買つた直後に雨がやんだのです。また、おみくじを引いた時のことです。一回目は伏見稻荷神社で、「半凶」を引きました。人生初の凶。しかも、「半」がつくというなんとも微妙な結果でした。しかし、お守りを買つた後に引いた二回目のおみくじでは、なんと「大吉」でした。この御利益はとても些細なことかもしれませんのが、他の買いたいものを我慢して、このお守りを買って良かったなと思いました。

私たちの旅行が無事に楽しく終えることができたのも、このお守りのお蔭かもしれません。私は皆との5日間の思い出がつまつたこのお守りを今も肌身離さず持っています。



特別なお守り

2年2組

瀬崎 颯斗

## 2学年見学旅行【9月1日(火)～5日(土)】

日	行程
1日	旭川→新千歳空港→伊丹空港→大阪半日自主研修
2日	コース別研修
3日	関西自主研修
4日	京都→奈良(薬師寺・奈良公園)→新横浜→中華街散策
5日	首都圏自主研修→羽田空港→旭川空港

## 見学旅行



### 3年6組 優勝の胴上げ

球技大会を終えて



3年6組

秋季球技大会は、一・三年生とともに白熱した勝負が繰り広げられ、全員の思い出に残る行事になつたと思います。特に三年生は最後の大会ということもありますから、日頃から作戦や戦術を練り、練習に励んでいる生徒も多く見受けられました。勝利を喜び、敗北を悔しがりながら、クラスの団結がより一層深まり、素晴らしい行事にすることができたのではないか。私たちのクラスは総合成績で優勝という結果を残すことができました。しかし、その過程の中でチームそしてクラスの絆が深まつていったことが何よりの収穫でした。競技経験者が中心となつて、勝つ



快晴のもとペースも快調

## 急歩大会



1年5組

急歩大会は男子16キロ、女子12キロを自分のペースで走る行事です。私は今までに12キロという長い距離を走ったことがありますんでした。12キロは想像以上に長くつらい道のりでした。

めつたにないこと  
だと思います。だ  
からこそ、このつ  
ながりを大切にし  
ていきたいです。

順位	クラス	名前	記録
1	2年7組	岡田 晴貴	55'23"66
2	2年5組	石川 淳太	56'19"63
3	1年2組	八島 啓平	56'53"62

順位	クラス	名前	記録
1	1年5組	丹野 奈那	47'34"64
2	2年5組	福山 愛子	48'46"78
3	2年7組	増川 友理	49'10"31

職業セミナーを終えて



岡田 実月

私は今回、吉原農場の吉原さん、旭川市役所の浅利さんのお二人からお話を伺いました。

しかし最後まで走り切ることができたのはたくさんの方々のサポートのおかげです。すれ違うたびに学年も部活も関係なく本当にたくさんの方から「がんばれ」と声をかけていただきました。その声がとても嬉しく、走る励みになりました。

急歩大会を通して、たくさんの方々との「つながり」を感じました。こんなに多くの方とのつながりを感じる機会は

めったにないことだと思います。だからこそ、このつながりを大切にしていきたいです。

最後に、急歩大  
会を安全に行える  
ように準備してく  
ださつた先生方や  
保護者の皆様、本  
当にありがとうございました。

吉原さんは、農業ができない冬場にも、積極的に本州や海外の研修に参加されるなど、とても行動力のある方でした。常に新しいことに目を向ける探究心と、「お客様に笑顔を」という目的へ前進していく姿に、深く感銘を受けました。

浅利さんの講話で印象的だったのは、学力と同じように「コミュニケーション力も磨いてほしい」というお話です。人間関係の構築が、組織で行う仕事において非常に重要であることを改めて実感しました。



工学情報講座 関 洋祐 氏(北海道地図株式会社)



講師 西本 伸顕 氏



全校生徒にメッセージは届きました

## 文化講演会

### プラス思考の大切さ

2年6組  
宮谷 遼司

平成27年度の「文化講演会」は10月29日、「フラン・マルシェ」社長の西本伸顕氏を講師に迎え、『旭川東高生の皆さんへのメッセージ』と題してご講演いただきました。

「プラス思考で道を拓く」、これは講演会で西本さんが初めてに掲げていた言葉です。何かに失敗してしまうこと、ネガティブになってしまったことは誰しもが経験したことのあることだと思います。失敗しかし、「失敗は大切」なのです。失敗でさえもプラスに捉え、「結城から一步を踏み出す」ことは大切であると心の底から思いました。日常でも困っている人がいたら、「誰かがやってくれるだろう」で終わらせるのではなく、自ら積極的に行動するべきだと思いました。その恩がいつか帰つてくることを信じたいと思います。

個人としても、東高に入学した時に情熱的な人が先生方を含めたくさんいることが刺激となつて、これまでマイナス発言を避けてきました。自分の脳は自分のマイナス発言を逃しません。そうして頑張つたら「仲間に後押ししてもらえる」のだと思います。それが成功につながる秘訣だと信じています。失敗し、言い訳を考えるくらいなら、次のチャレンジをしようと思います。

そんなエネルギーの詰まつた富良野に地元市民である私は、一段と誇りを持てるようになりました。西本さんの行つた再開発プロジェクトはプラス思考である西本さんだからこそ成し遂げることができただと思います。

この冬は「フラン・マルシェ」とスキを楽しむチャンスかもしれません。是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、西本さん、大変貴重なご講演をありがとうございました。

生徒会長 2年2組  
松本 夏月

私たち後期生徒会執行部は現在1年生13名、2年生12名の計25名で楽しく、明るく、メリハリのある活動をしています。前期生徒会執行部の1、2、3年生計48名に負けず劣らずいろんな才能をもつた個性豊かなメンバーがそろっているので、それらをまとめて、一つのチームとして力を發揮すること大切にしています。

後期の生徒会執行部の活動方針は「東西」という言葉です。この活動方針には

「東」の空が「西」色になる1日の始まり、「日の出」のときのように新しく新鮮な気持ちをもつて活動しようという思いを込めました。後期の主な活動としては、北人編集、予餞会の企画や運営、執行部の活動を伝える生徒会通信「紡」の発行があります。そして、このほかにも来年の7月に行われる学校祭に向けての準備というのもすでにスタートしています。行事の運営に関しては毎年過去のものを越えていき、パワーアップさせたものにしていくことが目標です。これらの執行部の活動は、全校生徒のみなさん、先生方、保護者の皆様の協力があるからこそなし得ることができます。この場を借り、お礼を申し上げます。常に支えてくれている人たちがいるということを忘れず、感謝の気持ちを持

## 後期生徒会紹介

### 新たな一步

ちながら日々の活動に取り組んでいきます。実は後期の活動の中で、先ほど挙げた活動方針である「東西」のほかにもう一つ意識していることがあります。それは「苦しいときこそがんばる」ということです。活動しているとどうしても苦しいときが必ずやります。嫌なことから逃げ出したいくなる時もあります。しかし、このようなときこそ自分達が成長し、新たな一步を踏み出すことができるチャンスだと考えるようになっています。どんな困難の先にも必ずゴールはあります。このことは、今までの活動を通して強く感じてきました。

これからの活動の中ではこういつた言葉だけではなく、実際に行動として示していきたいと思います。



後期生徒会執行部スタッフ



## 地域医療体験

### 地域医療体験を通して

2年7組 潑澤 朋紀

実施日 9月28日（月）  
協力病院  
名寄市立総合病院  
富良野協会病院  
参加人数 2年生21名

【研修テーマ】『道北の医療の現状について』  
【研修テーマ】『地域で働く医師を増やすためには』

今回の体験では主に道北の医療の現状について学び、自分もそれを支えていくような仕事をしたいと改めて感じた。

まず、道北の医療についてのディスカッション・講義から、多くの難しい問題をかかえているが、その解決が高齢化・過疎化が進んだこれから日本の医療につながっていくことを知った。また、ディスカッションをすることで自分の知らないことや違うものの見方に気づくことができ、意見交流の必要性を感じることができた。今後も様々な考えに触れ合う機会を大切にしていきたい。

その後の救急処置の体験では、成人だけでなく新生児の人形を使つて脈を探したり、人工呼吸蘇生法を行つた。同じことをするのでも力加減や行う方法が全く違つていて困惑し、どちらも人の命が関わっていると思うと手に汗握つた。豚の心臓を用いたウェットラボでは、教科書で見たことのある心臓の構造を実際に見ることができ、興味深かつた。人工弁の移植手術の体験では手術器具が思うように動かせなかつたり、縫合が非常に繊細で相当な集中力と練習が必要になると感じた。

体験を通して、現状に多くの課題があるが、北海道の全ての人々が安心して暮らせる環境を作つていくためには人と人が協力することが重要であり、患者とのコミュニケーションはもちろん、すべての人と良好に付き合つていける総合的なコミュニケーション能力が必要であると感じた。医療現場の重要さと大変さを実際に知ることができたからこそ、私は技術だけでなく人とのつながりを大事にしていける人になりたいと強く思った。

## 定時制だより

昨年にくらべ雪が早く降り積もり、いよいよ明日から冬季休業となります。

学校の1年間は、4月に始まり3月で終わますが、暦では1月1日に始まり、12月31日に終わる1年間となっています。そのため、平成27年を振り返り、平成28年に向け、気持ちを新たにスタートを切る年になります。皆さんにとってこの1年はどうのような年であったでしょうか。また、来年はどうな年にしたいと思つていますか。ぜひ、この機会に考えてみてください。



### ☆2年生宿泊研修

10月14日から、ネイ

バル深川において1泊2日の日程で実施しました。七宝焼きでキーホルダーをつくつたり、フロアカーリングなどのクリエーションに取り組み、交流を深めていました。

### 8月～12月の出来事より

#### ☆道北地区生活体験発表大会

9月11日、大雪クリスタルホールで開催されました。本校からは、1年生の番穂乃香さんが、学校代表として出場しました。『存在』と題して、小学生から高校入学までの生活を通じ、親の愛情を感じ取れた時のことや、定時制高校へのイメージが、入学後に180度変わったことなどを、たくさんの方の聴衆の前で堂々と発表していました。

#### ☆生徒会役員選挙

11月6日、生徒会役員選挙を行いました。新生徒会執行部を紹介します。



☆3年生見学旅行  
10月19日から、関西（奈良・京都）と関東（東京）方面へ、4泊5日の日程で出かけてきました。

北海道とは違い、日中は連日汗ばむよう陽気に恵まれ、雨にも当たることもなく楽しい旅行となりました。見学旅行の定番、東大寺大仏殿の見学をはじめ、各班ごとに自主研修の計画を立てて、思い思いの場所を見学しました。

#### ☆情報処理技能検定試験（表計算）

2級：3年生7名  
3級：2年生6名

合格おめでとう

## 変革期の中



松井 恵一  
進路指導部長

2015年11月東京で行われた全国公立高等学校進路指導研究会において、京都大学大学院人間・環境学研究科鎌田浩毅教授による「若者が『大地変動の時代』を生き延びるために」と題する講演がありました。鎌田教授は講演の中で、2011年の東日本大震災以降、まさしく地球規模で大地変動の時代に入つたと指摘され、「その時代の中で『逞しく生き抜いていく強さ』と『20年後を見据えて何を大学で学ぶのかを明確にすること』」の重要性を説かれていました。

現在、大学入試改革・高大接続改革が急速に進む状況がみられ、その中で大学では学部再編による定員の変更や新学部・学科の設置、そして東京大学や京都大学をはじめとして、これまでの一般人試では測ることの困難な力を測るために新しい入試制度の導入が進むなど、「何をどのように学び、どのように社会の中で生き抜いて行くか」が明確に問われる時代となっています。

このような時代の流れをふまえ、今年度から1・2年生において、從来の1年生文理医別集会、2年生志望校別進路集会において、入試の仕組み等を学ぶだけではなく、アドミッションポリシー（入学者受入方針）研究を新たに導入しました。アドミ

は、単に大学の特徴を知るだけではなく、いくつかの大学を比較検討することによって、大学で学ぶためにどのような力が必要であるのかを明確にし、高校生活における学び方にも直結するものとなります。また、1・2年生の希望者による探究型学習「旭東アカデメイア」も実施しております。

しかし、変革の時代を迎える中でこそ、どつしりと土台を形づくる取り組みも重要であると感じます。旭川東高校では、入学後から宿泊研修・合唱コンクール・学校祭と夏休み前に猛烈な勢いで様々な行事が実施されます。また、部活動に加入している生徒は、練習も日々行い、さらには学校外の活動にも積極的に取り組む生徒もあり、非常に忙しい日々を送ります。その中でも学校の授業を大切にして時間の大切さや優先順位の付け方を学んでいきます。この時間の大切さや優先順位の付け方は、時代が変化しても重要な力であり、忙しい中であるからこそ身に付けることのできる力であると感じます。この力は、旭川東高校の学校標語である「シマレガンバレ」の精神に通じていると言えます。

各学年の現状をみると、1年生は、2年生からの文理選択も終えて、さらにどのように自分の実力を伸ばしていくべきか試行錯誤している様子が見られます。2年生は、早期に受験生への移行を意識し、見学旅行後から外部講師の講演や模擬試験での5教科型受験がスタートしています。自分の課題に積極的に取り組

む様子が見られます。各学年ともに取り組むべき課題が明確になると、どのように克服すべきかについて苦しむ時もあるとは思いますが、課題が明確で、その課題を克服するようになります。

3年生は、受験生としての最終コーナーにさしかかっています。平成28年度センター試験は、平成28年1月16日（土）と17日（日）に実施されます。まさしく、受験本番直前という時期を迎え、不安や焦りの中で精一杯自分の実力を伸ばすため、朝早くから登校し放課後も最終下校時間ぎりぎりまで日々学習に取り組んでいる様子が見られ、最後の最後まで闘う姿勢をみせてくれています。自己の持てる能力を最大限に発揮しようと努力する姿勢は、さすが3年生であると逞しさと頼もしさを感じます。

変革期の中において必要な対応力とそれを支えるために重要な土台を形づくる力、この両方を身につけてこそ、大きく変革する時代を逞しく生き抜いて行く力と言えるのだと思います。めまぐるしく様々な状況が変化する時代ではありますが、時代の潮流を捉え、その中で逞しく生き抜いて行く土台としての力を失わぬよう生徒たちの成長を後押しできます。

また、アクティブラーニングを推進してきた溝上京大教授の「アクティブラーニング自体は、いわゆる『受験学力』を向上させることを目的とはしていい」という過度の期待に対して感じている苦々しさや、「勉強はできるけどコミュニケーション能力の欠如により就職活動で失敗する生徒をこのまま生み出し続けてよいのかと思つてはいる」という現状を憂慮した訴えが印象的でした。

他県の事例を見ても、やはり「生徒が社会にどう貢献し、どういう人生を送つてもらいたいか」という視点で行われる進路指導こそ成功しており、「自己の幸せを社会発展につなげる」という本校の基本的な考え方は間違つていないと再確認できました。

## 研究会参加報告



堀江 昌昭  
教諭

8月8・9日、猛暑の京都で開かれた「高校教育フォーラム2015」に参加してきました。

（独）労働政策研究・研修機構の小杉特任フェローによる基調講演は、①専攻のミスマッチが大学中退の一因であり、大学中退者は正社員に就職しにくその後のキャリア形成にもマイナスであることがデータから明らかであり、「手に職をつける」というのではなく、生徒の関心や能力をよく考えて受験させて欲しい、②高校は自己の身を守れる知識や常識（「世間知」）を身につけさせる最後の砦であることを意識して欲しい、という内容でした。「入れる大学ならどこでもいい」というのは論外で、生徒の適性に合った進路を選ばせる指導がますます必要になります。

# 部活動報告



今年度大活躍の文芸部

S	水野 梨緒(1-2)	2回戦
S	岡田 実月(1-1)	1回戦
◆	野球部(秋季北海道高等学校野球大会)	
旭東2	—札幌日大4	
卓球部(北海道選手権大会)		1回戦
男子		

朗讀部門 堀川菜々花(2-4)  
諷佐菜々子(2-5) 出場

混合	S S 長谷川公紀(2—1)	D D 板井一生(2—1)	1回戦
女子	D D 三浦(3—6)・齋藤(2—7)組	S S 齋藤 心(2—7)	3回戦
	S S 三浦野乃花(2—6)		4回戦
文芸部	(高文連第13回全道文芸コンクール)		2回戦
詩部門	藤田 そら(2—3)		
短歌部門	荒井 愛永(3—7)	優秀	
	木村 杏香(3—6)	優秀	
藤田	そら(2—3)	優秀	
渡部	琴絵(3—7)	入選	
俳句部門	荒井 愛永(3—7)	最優秀	
	木村 杏香(3—6)	優秀	
渡部	琴絵(3—7)	入選	
柳元	佑太(2—2)	入選	
木村	杏香(3—6)	入選	
(第10回北海道小中高生短歌「コンテスト」)			
北海道教育委員会教育長賞			
放送局	北海道高等学校文化連盟放送コンテスト)		
ラジオ番組部	出場		
ピデオメッセージ部門	出場		
アナウンス部門	出場		

堀川菜々花(2—4)	出場	出場
諏佐菜々子(2—5)	出場	出場
朗読部門		
辻 敬志郎(2—1)	出場	出場
西沢茉那花(2—2)	出場	出場

菅野 晃太(1-12)	英語部(全道高等学校英語弁論大会)
全道高等学校将棋選手権大会 兼 全国高等学校将棋選手権大会北海道大会出場	将棋部
全道高等学校音楽発表大会 北海道合唱コンクール高等学校部門 A 金賞	音楽部
化学部(高文連理科研究発表大会) 化学部門	化学部
「銅板表面における 酸化皮膜の分析」 「亜鉛の腐食の仕組み」 「金属の不動態形成に関する研究」 「ホールピベットはどこまで 正確にはかりとれるのか(第2報)」 「優秀ポスター賞	★総合賞 優秀賞 優秀賞 優秀賞 優秀賞
日本学生科学賞北海道審査会 「亜鉛の腐食の仕組み」 「優秀ポスター賞	読売新聞社賞
美術工芸部(出品) 蕪山 厳弥(2-3)	美術工芸部(出品)
文芸部	文芸部
旭川市文化奨励賞	旭川市文化奨励賞
旭川市教育奨励賞	旭川市教育奨励賞